

# 議 事 録

令和6年 2月 16日

記 録 者 名	山崎 寛子
会 議 名	一般社団法人天草宝島観光協会 令和6年度 第3回理事会
日 時	期 日：令和6年12月25日（水） 時 間：15時00分 ～ 16時30分
場 所	天草宝島国際交流会館ポルト 3階 多目的ホール
議 事 内 容	
<p>【出席者】</p> <p>出席理事：山下修平、江崎航、深川隆一郎、濱崎英文、松本國雄、金子信之 竹地克夫、田口京重、野崎健、田中光徳、藤本貴士、松崎義文</p> <p>顧 問：泉廣幸</p> <p>欠席理事：中田勝也、本田晴美、倉田泰、野崎多喜子、下田貴久、宮下剛</p> <p>出席監事：本田一、近藤雄一</p> <p>事務局：中山智之、古川雄一、山崎寛子、野下正裕、山下朋子、金子賀寿彦、園田安仁</p> <p>【議事録】</p> <p>（中山事務局長）</p> <p>それでは定刻となりましたので、天草宝島観光協会令和6年度第3回理事会を開会いたします。まずはじめに会長挨拶に移ります。藤本会長、よろしくお願いいたします。</p> <p>（藤本会長）</p> <p>皆さん、年の瀬のお忙しい中、第3回理事会にお集まりいただきましてありがとうございます。本年も一年大変お世話になりました。来年も引き続き、当協会の活動に対してご理解ご協力の程、よろしくお願いいたします。</p> <p>また先日、先月の19日ですね、下呂温泉の観光協会の瀧会長をお迎えしまして、DMOに関して大変貴重な講演をいただきました。その際ご参加いただいた方にはですね、また後ほど感想、ご意見等を頂戴いただければなと思っております。また皆さんご承知のように、来年4月からいよいよ関西西博が約半年にわたって開催されます。たくさんの訪日外国人の方が日本にいらっしゃいますので、一人でも多く九州、熊本にお越しになることを期待しております。</p> <p>また先日、釜山LCCも就航しまして、また2月にはまた台湾、高雄便も再開するというところで、熊本県内だけでも週便40以上の国際便が飛んでおります。今後、ますます活況を呈して</p>	

くると思いますので、今後、協会としてはインバウンドに関しては来年も引き続き取り組んでまいりたいと思いますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。今年最後の理事会となりますので、また皆さんの忌憚のないご意見を頂戴しながら進めてまいりたいと思います。どうぞよろしく願いします。

(中山事務局長)

藤本会長、ありがとうございました。なお、本日の理事の出席でございますが、現在10名の参加をいただいております。現状でいきますと、総勢19名に対して10名の参加ということで、定款第6章の理事会第33条に基づき決議が成立することとなりますので、ご報告申し上げます。それでは協議に入ります前に、議長の選出を行いたいと思います。議長につきましては、執行部の中からお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。田口さん、お願いしてもいいですか。

(藤本会長)

松崎課長がまだお見えでないが。

(中山事務局長)

はい、松崎課長ですが午前中、私が市役所に行ったときにお会いしまして、事前に別の会議があつて、ちょっと遅れますと、もう始めとってくださいと言ったところだったので、申し遅れました。失礼しました。それでは、議長を副会長の田口さんをお願いしたいと思います。田口さん、よろしく願いいたします。

(田口副会長)

はい。じゃあ、年の瀬でございますので、できるだけ早く、端的にいきたいと思います。ご協力の方をお願いします。それでは、協議事項のDMO推進について、事務局の方から説明をお願いします。

(中山事務局長)

はい。協議事項1のDMO推進について、説明が入ります前に、お手元の資料をご覧いただければと思います。まず、クリップを外していただいて、一番が理事会の本資料、その次にありますのが、R6の補正の予算、A3縦型の折り込んだやつですね。続きましてが、表紙はR6では6年度の事業計画及び収支予算としていますが、本当はR7ということで、こちらにつきましては、おいおい、執行部のご意見を頂戴して反映してまいります。それに付いてございます、A3の折り込みですね。こちらはR7の当初予算ということで、左半分が一般会計、右半分が特別会計となっておりますが、右側の特別会計につきましては、今後の事業とかのこともありまして、右側はR6のままとなっておりますので、あらかじめご承知おきをお願いします。最後に一枚ついているのが、この年度の新規会員及び退会会員となっております。以上が配布資料となりますが、今お手元に資料で過不足がありましたら、挙手をお願いいたします。よろしいですか。はい、それではDMO推進について説明に入ります。

1. DMO 講演会の開催ということで、先ほど会長からもございました11月19日にこちらの方で瀧先生をお招きしまして講話をいただいております。DMO (Destination Management Organization) ということで、地域の関係者が一体となって事業を行うこととなります。瀧先生の講話より要約が①から⑦までございますけれども、こちらは後ほど皆様お読み取りをお願いいたします。一番下に参考といったことで、横文字が出てくるんですけども、KPIであったりPDCAといったところも説明が注釈でございます。

4ページに移ります。下呂温泉の場合、協議会を発足して、データに基づいた会議を毎月実施して、戦略を練って、団体が効率的にその役割を果たして地域を運営しているといった状況です。また、月間の入り込み客数等々、あらゆるデータを各団体の目線で分析し、協議会として一つの意見をまとめ、意識の統一を図るといったことです。

役割分担として、1例と書いてございますが、自治体に始まりまして、いわゆる観光協会、商工会議所、温泉旅館組合等々、こちらは1例で役割が記載してございます。そういった役割分担は、◆のところですけども、当協会に当てはめて考えた場合といったところで、当協会が主体となってDMOを推進する場合の設立運営案といったところで、カッコ1から5までが記載してございます。

協議会の旗振り役として各団体に呼びかけを行い、持続的な協議体の組織運営を担い、各団体の役割分担を明確にする、作業負担の了承を各団体から得る、毎月定期的に会議を開き、各種数値をもとに指針を定め、各団体別に割り振られた役割を果たすといったところで、我々が考えたところの案でございます。

そういったところを踏まえて、DMO化に向けた今後の方針といたしまして、上記の内容を踏まえて、当協会としての今後の方針をこの場で協議いただき、この場で何かしらの結論を出していただければと思っております。DMOに関する説明は以上でございます。

(田口副会長)

DMOについては、瀧さんが来られたときに、講演含めてお話があったというふうに思っておりますけども、出られた方で感想あたりあれば、じゃあ何か。松本さんなかですか、せっかく出ていただいて・・・

(松本理事)

さすがに出席者が少なかったなと。それだけまだまだ浸透してないのがはっきりわかりましたよね。出席者、この理事の中からでもわずか3名あったですよ、行ったのは、だからまだまだこれは今から話し合っていかなきゃいけない問題じゃないかと思えますよ。なかなかいい話ではありましたよ。でもそこにたどり着くまでのね、発想するまでの、この話というのは非常に、今我々が考えているように、右から左へポツと入るような問題じゃないと思えます。

これは会長も来ておられましたので、会って分かっていると思えますけど、これからはやはりあっちこっちの団体とも協議をしないといけないし、やはり簡単な問題じゃないと思えます。だいたいこの前からの理事会でも、明日にもできるような話のように話が進んでいくようでしたけど、

私の考えでは、これは到底ちょっとやそつとではまとまらない話じゃないかなというのを

思いました。いわゆるこの理事の中でもですね、やはり皆さん忙しかったからかはわかりませんが、やはり参加者が少ないというのがですね、やはり何かのあれがあるのかなとも思っておりますしですね、まあ、これは執行部の方達も考えていただいて。他の団体の方たちもここに書いてあるように、やはり話し合っただけでまとめていかなくてはいけないというような感じでしたので、一応私の感じ方は以上です。いい話だとは思いますが。

(田口副会長)

もともとDMOについて、糸口を探りながら天草に合うのか合わないのかを含めて進めていきましょう。その時に、いや、DMOって分かりませんという方が、松本さんを筆頭に声を上げられたので、じゃあ講演会、あるいは講習会をやって、その中で方向性あたりを見出していつか、今後につなげていきたいということで講習会を開催したんですよね。だから、それを導入することが目的ではなかったですよ。導入することは決まっていなくていいんですよ。

ただ、一つの方法としてDMOがありますよ、という提示がありましたので、その糸口を探る。それに従ってですね、今後は進めていきたいというふうに思っております。他なければ次。

(事務局 古川)

すみません、ちょっと駆け足すぎたので、補足説明をさせていただきます。瀧先生の講演の内容を受けましてですね、DMOというのは観光協会単体で名乗るというよりは、他の、ここにも書いてございます、自治体、商工会議所または商工会、その他の2つ、温泉旅館組合等々が一緒になって、組織する、協議会をまず作るということがまず1点。

それで、その協議会の中でですね、役割分担をして、重複するような事業を削減したり、またはここが抜け漏れの事業があるというところでは、そこを補ったりという形で、無駄のない運営を地域で行っていくということが1点。これが2点目ですね。

最後に毎月多角的な分析を行って、皆さんで意識統一を図って、地域全体で、観光をマネジメントしていく、この3点がDMO化に向けた大きなポイントかなというふうに思っています。

それを踏まえたところで、DMOはもう進めるのであれば、各協議会を立ち上げるというのを前提に、そういった各種団体等に呼びかけが必要になってくるのかなというところがございます。以上です。

(田口副会長)

古川君が言ったように、古川君が中心となってやっていただければ、その方向で、調整をすることができるものなのかも含めて、理事会の方に諮ってまいりたいというふうに思っているんですけども、今、せっかく研修会に出て、今言われたようなことをお気づきになったということであれば、それをどういうふうにしていくかということに協力をしていただければというふうに思います。

(事務局 古川)

私を中心にとおっしゃいましたけれども、要するにこの団体で、担当者としてはあるかもしれませぬけれども、非常に大きな協議会になるということなので、指針として執行部の皆

さんのご意見があって、どのようにして動かしていくかというのは、この理事会で語りながら動かしていかないと、ちょっと一筋縄でやりませうという感じではないのかなというふうに今は受けております。

(山下副会長)

すみません。山下です。DMOの下呂温泉のお話とかをお聞きして、データマーケティングというお話だったかと思います。それは戦略を作るため、どこに広告を打つなり、広告がよく出てくるので、この中の話としてはですね、どこに広告を打つなり、この地域の人を呼ぶなり、どういうふうに訴求するなり、何を取り組みとしてあげるなり だったと思うんですけども、瀧会長がおっしゃられていたのは、観光協会にはデータが既に取られているみたいなお話があって、実際、宿泊数などは毎月、観光協会の方に、市じゃなくてですね、観光協会の方に上げるということになっています。それを直接データとして表に出せないというのは当然なんですけれども、入り方、お客さんの入り方というのは、少なくとも宿に関しては分かっていたりするという事もあるので、それをちょっと十分に活用、今できているかどうかという、できていない。

ただ取るだけが目的になっているということがある。少なくともそこについては、例えば宿の入りが悪い状況であれば、お宿さんのところに行って話を聞いて、具体的な数字が出せないのであればそこを分析していくとかですね、そういうこともできるかなと思いますし、それから天草市の方で観光客、入り込み客に対して、宿泊客に対してアンケートを取られていて、これが今ちょっとどういう座組みかわからないんですけど、町づくり会社が少し前までは受けられていたので、例えばそういうところと一緒に、例えば天草市と町づくり会社が話し合う場に観光協会も入れてもらうような形で、まずちょっとその、本当はそれ基本的なところだと思うんですけど、戦略を練る上の、そこから始めていってはいかがかと、いきなりちょっと大上段で大風呂敷を掲げて、その商工会議所と座組みを組むみたいな話をしてはですね、もちろん私は商工会議所入ってたりするんで、連携は個々人では取れるかもしれないですけど、じゃあ会頭を呼んで何話すんだっていうこともあるんで、できることを基本的なところ、足元のところをちょっとやっていかないといけないんじゃないかなとは思っています。

なので、ちょっといきなり大きな風呂敷で、ちょっと座組組めないんで、誰が担当でとかって話じゃなくて、基本的なところをちょっとやっていきたいなと思ったのと、PDCAの話がありましたけど、これちょっと読んでいただくと、やったことに対してちゃんとチェックして、評価してっていう話なんですけど、今まではちょっとやったこと、評価をする前に、次年度の予算を取るためにもう実施が決定してると、動かせないみたいな感じのものをずっと続けてきて、補助金が落ちないみたいな話だったんで、少なくともその評価をする、これは基本的なことのはずなんですけど、そういうことをやるということをやらずに始めていってはいかがかなと。

事務局の方も大きく考えたものをお戻しいただくので、ちょっとその前段のものでいいんじゃないかなとは思っています。これは私の意見なんで、皆さんの意見を出していただきたいです。前やってたようなグルメフェアもやれないような状況にはなっているというか、そのまま続けていてもしょうがないですよと市の側は言っている。

ただ、市も何かやってほしいとは思っているというような状況なんで、いらっしやらないので、今この話してももったいない感じにはなりそうですけど。観光協会の通常の業務として、事務手続きをずっと回しているみたいなことがあって、それで手いっぱいだったりするんですけど、そうじゃないことをやらないと観光に資することをですね。

DMOという形は別に、正直僕はどうでもいいと思っているんですけど、DMOを申請して、申請の取り消しが起こったりしているので、その形を作るのはかなり難しくなっているのかもしれないので、その前段をまずきちんとやっていくべきではないかなと思っています。皆さんはいかがお思いでしょうか？

(田口副会長)

DMOについては伺います。今言われたようなことも踏まえて、今一度執行部と事務局を入れて、すり合わせをするというのもいいですかね。この後で多分、ご意見というのも、今見られた方もいらっしやるので、非常に厳しいんじゃないかなというふうに思います。それでよろしいですかね。

(理事全員)

はい。(全員承認)

(田口副会長)

じゃあ次。

(事務局 古川)

すみません、結果としてはとりあえず保留というか、OKでもNGでもなく保留という結果ということでよろしいですか。

(田口副会長)

いや、今後の進め方とか今言われたことも踏まえて、執行部と事務局ですり合わせをして、方向性を見出していきたいというふうに思います。よろしいですか。

(理事全員)

はい。(全員承認)

(田口副会長)

はい次。

(中山事務局長)

はい、続きまして、カッコ2、R6年度補正予算案についてでございます。こちらは1枚ものA3の縦の紙を参照してください。

左側が一般会計、右側が特別会計となっております。補正でございますので、主な変更点を説明してまいります。まず一般会計の1番の1番ですね、会費収入、こちらは現会員数で計

算をしております。3番目の雑収入、こちらは税理士や社労士への支払いの不足分を、当協会財源から繰り入れをしております。

続きまして支出です。支出の事業費の中で、1番の観光宣伝及び観光客誘致のところですが、観光宣伝費や各支部事業、部会予算を見直しております。続きまして4番の観光客受入態勢整備でございますけれども、こちらはイラストマップの増刷であったり、クルーズへの対応費を追加しております。続きまして運営費に移ります。運営費は1番のまず給料手当、こちらは現人数での計算をしております。

11番目の委託料、こちら税理士、社労士などへの支払い見込みを再計算といった形で補正をかけております。左側の一般会計についての主な変更点は以上でございます。

続きまして右側ですね、特別会計の方に移ります。主な変更点といたしまして、まずは収入の部から、2番ですね、広告バナーのところは、実際の収入へ変更してございます。番号では6番の2つ目の受託料ですね、こちらが業務受託料はチャリチャリだったり、旅行商品造成の委託料が追加してございます。その下の受託料カッコ特別会計、ポナン社だったり、冬の誘客事務局やハイヤ保存会事務局の委託料を追加してございます。

8番目のその他収入、DMO推進であったり、弁護士、泉顧問、費用支払いのため、当協会財源からの・・・となっております。

続きまして支出の部でございます。まず事業費でございますが、1番の着地型旅行商品、こちらは旅行商品であったり、化石採集クルージング、支払い見込み額含めて補正をかけております。

続きまして4番で、4番の2つ目ですかね、観光資源開発保護育成ですが、委託金の7割を試乗会などへ当てております。

続きまして、調査、研究、チャリチャリや宝島レンタカーへの支払いの宿泊調査経費で補正をかけております。その下、観光客受入態勢整備、牛深観光案内所といったところで、こちらは光熱水費、共益費のみといったところで補正をかけております。

5番目の自主事業、こちらは伊勢えびやウニだったりするんですが、伊勢えび祭りの費用と来年の実施のうに三昧の実行委員会の会議費で補正をしております。

最後6番の委託費ですね、こちらDMO推進費、弁護士等、支払い分で補正がかかっております。最後運営費ですね、繰出金とあります。税理士、社労士に支払不足分を補うため一般会計へ繰り出しをかけております。

以上で、R6年度の補正予算についての説明は以上でございます。

(田口副会長)

はい、予算の説明があつたんですけど、ご質問の方は、あられる方は？

事務局長、特別会計の受託料と業務受託料、ここが元々予算と補正の…大きく違うところですけど、その辺を補足することはありますか？

(事務局 古川)

すみません、古川の方から説明させていただきます。一番大きいのは、前回の理事会で事業内容の変更だけ図らせていただいたチャリチャリ、シェアサイクルですね。その部分が918万円ということで大きく動いております。

主だってはそこだと思んですけど、あとは宿泊調査とかが積み上がってという形になってます。

(田口副会長)

はい、ありがとうございます。今の補正予算の説明があったんですけども、よろしいですか？

(理事全員)

全員承認。

(田口副会長)

ないようであれば、6年補正予算については、上記のようにして執行させていただくということで、ご了承お願いいたします。次に、令和7年度事業計画予算案について説明をお願いします。

(中山事務局長)

はい、ありがとうございます。先ほどの2の案を削除させていただきます。次の3番の、令和7年度事業計画予算案でございます。表面に令和6年度を書いておりますが、実際は令和7年度になります。

四角い箱の下に、今後ですね、執行部の意見を反映するという形で、次回理事会でつなげてまいります。それでは、表紙をおめくりいただきまして、令和7年度の補助事業になります。こちらはちょっと、全て読み上げてしまうと長くなりますので、主なところをかつまんで説明をいたします。

まず1番の観光宣伝及び観光客の誘致ということで定款第5条第1項第1号ですねこちらは販売活動費20,149,000円を見込んでおります。構成する中身としては観光宣伝、部会の活動費、各地域の誘客事業といった中身になります。

つづきまして口の2番ですね、観光に関する調査研究並びに情報の収集・提供、定款第5条第1項第3号でございます。情報の収集といった形で事業費25万円となっております、各種キャンペーンを利用してアンケートを徴収しターゲットなどを分析するというのでこの予算を積んでございます。

口の3番ですね。観光客受入態勢整備といったところと言うと、まずカッコ1の情報媒体の作成といったところで、天草ランチガイドブックの改訂増刷を行うというところで進めます。カッコの2 最初の3文字、外国人の部分の文字を削除を願います。外国人とは限らず、一般のですね、観光客受入態勢整備といったところで、341万4000円の予算を見込んでおります。内容としましては、多語自動翻訳ですね、というところが主な内容となっております。最後です。

口の4番ですね。観光関連諸機関との連絡調整というところで、県観光連盟やその他諸々ですね、その辺の連絡調整というところで、その額をしております。内訳としては、その下にですね、各地域ですね、南天草に始まり、各地域のところの大まかな予算を記載してございます。



補助事業については以上でございます。ページをおめくりいただきまして、令和7年の受託事業、続いて受託事業になります。米印で以下、金額についてはですね、今後協議してまいります。現状は、R6の参考金額といったところで書いてございます。まず1番目、観光客受入態勢整備といったところで、観光案内ですね、こちら370万円というところで、牛深観光案内所の運営業務経費として挙げております。

続きまして、口の2番ですね、観光に関する調査研究並びに情報の収集提供といったところで、構成します中身で言いますと、天草市の宿泊実態調査、観光資源開発、旅行商品造成ですね。続いて観光に関する調査について並びに、情報の収集提供といった、主だったものは、チャリチャリということになりますけれども、引き続きR7も実施してまいります。続きまして、その他の事業として、1番から10番までありますけれども、こちらもお題目は読み上げてまいります。

まず1番ですね、旅行業を活用した旅行商品販売事業といったことで、御所浦での化石採集クルーズですね、7月下旬から10月頃までといったところで、一部こちらは延長になっておりました。②のところは、第二種旅行業を活用した旅行商品販売といったところです。

5ページに移りまして、2番は広告収入といったところで、ホームページを活用した広告収入を得る話。

3番につきましては、これは国際交流会館ポルトの受託業務といったところで利用客の増加を図る事業ですね。

4番目、オリジナル商品の販売や宿泊手配の収益。

5番目が、崎津集落の観光美化清掃活動のところ。

6番目の事務局業務としましては、牛深ハイヤ保存会や冬の天草誘客推進協議会などの事務局業務を受託しております。

7番目、観光案内業務といったところで、お客様のお問い合わせに応じた案内やパンフレットの発送等を行っております。

8番目、校正や写真提供といったところで、旅行会社や雑誌社等の要望に応じ、記事の校正であったり写真の提供を行います。

9番目、教会の窓口業務としまして、崎津教会及び大江教会の問い合わせ、取材窓口として対応します。

10番目が、令和7年度食のイベントのことを書いております。共同での広報展開の実施といったところで、令和5年度までは市の補助事業として実施しておりました。令和6年度は自主事業として運営していくことになって、協議した結果、伊勢えび祭りを観光協会の自主財源と各店舗からの参加費や、うに三味では参加費で実施しております。

また、令和7年度には予算の大半が広告宣伝費に占められていたため、各イベントを含めた数年でのテレビCM広告を行いまして、各実行委員会の広告費を削減し、各実行委員会の自己資金イコール参加費等で会議等の運営を行う方針でございます。おめくりいただきまして、1番上ですね。

今月末までの予定であります。天草伊勢えび祭りについては、今年度の予算額約300万円に対して、参加金は62万円であるといったところと言うと、単年度では約240万円ほどの赤字運営となっておりますので、来期の開催については赤字運営にならないように慎重に協議する必要がありますと考えております。

最後のところは広報展開といったところで、簡単な年表が書いてございますけれども、まずは通年で見れるようなテレビCMを作り、スポットで各々のキャンペーン、告知が入るような、後ろの方でスポットを入れるような形での告知を計画してございます。R7年度の事業計画案、説明は以上でございます。

(田口副会長)

はい、ありがとうございました。今、令和7年度の予算を説明していただいたんですけども、もともと三味とか伊勢えび祭り、井井フェアとかこの1, 300万ほどの予算の使用方法というのは、ほとんど広告宣伝、全部じゃないんですけども、大半が広告宣伝を使っていたというようなこともありまして、来年度につきましては、上天草さんは1本で広告を入れるんですけども、季節的なものを入れていくという形で、この計画を組んでおりますけども、このあたりいかがでしょうか？よろしいですか。

(理事全員)

はい。全員承認。

(深川理事)

広告CMについては、賛成です。いいところは真似していかないと今の状態だと閉塞感があって、観光協会としては結局宣伝してなんぼだと思うんですよね、そうしていかないと観光協会の意味がないという気がしまして、これの意見には賛成です。以上です。

(田口副会長)

ありがとうございます。他にご意見ございませんか？

(理事全員)

はい。全員承認。

(田口副会長)

それでは、今説明があった形でですね、予算を進めてまいります。

(中山事務局長)

続いてR7の予算案ですね。

折り込んでございます、R7年度一般会計の予算案を説明いたします。左側のみが参考する画面となります。

似たような紙ですけど、事業の冊子と一体化しておりますので、そちらの左側をご覧ください。まずR7の予算のところですね、こちらの補助金収入、先ほどのR6のものと同じと見比べていただきたいんですけども、こちらはR6年度の予算の中の補助金収入と同一の金額でございます。この中身で先般ですね、松崎さんが財政課のヒアリングを受けております。

続きまして支出に移ります。先ほどありました、一番の観光宣伝および観光客誘致のところですね。R6の2277万円に対してR7は2000万とんで149, 000円といったところ。補正の中身

としましては、宣伝広告で300万、各支部事業が1,592万、合同部会が130万といったところになります。大枠ですね。見た感じ三角のマーク（マイナスを示す項目）が多いかと思えます。

いずれにしてもその支出を抑えた形で補助金を有効に使っていきましょうといった予算組になってございます。はい、当方からは以上でございます。

（田口副会長）

はい、ありがとうございます。

7年度予算の中で、事務局長その、支出のマイナスは分かるんですけど、大きいところの説明はいいですか？

（中山事務局長）

今、一番大きいところの観光宣伝というところを申し上げておるんですけども、それ以外のところですかね。例えば福利厚生であったり、100万～10万を超えているところと言うと、100万超えが福利厚生ですね。

（田口副会長）

福利厚生は人間が減れば、人が減れば減るので連動するということではわかるんですけども、今言われたような形で、260万減のところは広告宣伝費ということで、承認を得るということでもよろしいですかね。

（中山事務局長）

そうですね。2014万9000円の中から、来期のテレビCMに使いますし、そういったところに使ってまいります。

（田口副会長）

はい。今ご説明があったんですけども、数字編でご質問とかご意見とかあられる方はいらっしゃいませんか。

文章編は先ほどご承認いただきましたので、数字編につきましては、これをベースに予算を作っていくということでもよろしいですか。

（理事全員）

はい。（全員承認）

（田口副会長）

はい。ありがとうございます。では、続きまして、事務局の体制について。

（中山事務局長）

はい。それでは3、(3)の「案」を削除ください。4の事務局体制ですね、まず最初に①新規職員についてということで、事業部の正規職員の主事として、2024年12月1日付で入社をし

ております、金子賀寿彦（かねこ かずひこ）さんになります。  
自己紹介を一分でお願いします。

（事務局 金子）

金子賀寿彦と申します。よろしく申し上げます。入ってその日に25日に理事会が開かれると聞かされて、あまりよく分からないまま本日まで来ました。

まずはですね、皆様の顔と名前を一致させられるように、まず1年間頑張っていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

（理事全員）

一同拍手。

（中山事務局長）

はい、金子さんありがとうございました。フレッシュな人材なんですね。期待しております。よろしく申し上げます。

つづきまして②の退職職員ですね、2名の退職予定となっております。まず野下正裕事業部サブチーフ、中田千鶴子事業部の嘱託職員となっております。こちら、先般12月17日の正副会議の中でですね、野下につきましては、今まさに野下が抱えている業務を金子さんに引き継いでいる最中でありまして、完璧に引き継ぎが完了する迄ですね、多少やっていただくことになっております。ご報告申し上げます。

はい、続きまして、③現状と今後についてといったところで、今々の体制ですね、◆の1個目は1月以降の現職が7名といった形で、内訳はそうになってございます。参考までに2つ目の◆は、3年前のR3年度の総会時点は9名といった形で、体制を組んでございました。

一番下は現在と3年前と人員比較で、見ていただきましたらわかりますとおり、事業部の正規職員が圧倒的に戦力ダウンといったところで、こちらが課題として考えてございます。事務局体制につきましてもの説明は以上でございます。

（田口副会長）

今、現状と説明をしたんですけれども、何かご意見とかあればお聞きしてですね、今後に生かしていきたいと思っております。

（事務局 古川）

今、事業部の状況がご覧のとおり、1月以降2名というところで、しかも1年未満の新人が現在4人という状況で、事業を回すのがひっ迫しているような状況ですので、できれば追加人員なども検討した上で、円滑に事業が回るように整えていきたいと、思いますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

（田口副会長）

それでは次の、その他、新規会員についてお伺いします。

(中山事務局長)

はい、その他のところは総務部チーフの山崎さんからご説明いただきます。

(事務局 山崎)

はい、別紙の新規会員の加入について、正会員の方には承認をいただければと思います。3件ございます。楠浦レンタカー、レンタカー事業で本渡支部で1万円一口でございます。

(山下副会長)

楠浦レンタカーですね。

(事務局 山崎)

申し訳ございません。楠浦レンタカーさんで1万円一口でございます。民宿じゃいと1口1万円本渡支部、アオトミドリ牛深支部で一口1万円、マリンスポーツ関係の事業者さんと聞いております。じゃあ、こちら、ご承認の方はいかがでしょうか。

(田口副会長)

では、皆様ご承認していただけますか？

(理事全員)

はい。(全員承認)

(田口副会長)

はい、ありがとうございます。それでは、退会の方お願いします。

(事務局 山崎)

はい、退会の方、報告になります。牛深支部でスナックローズ5000円の個人会員、退会となります。浦川薬品、こちらは天草東支部となります。本渡支部高良寿司さんが退会届け提出がっております。以上です。

(田口副会長)

はい、退会の方はご報告ということでご了承ください。  
それではですね、報告事項、4番の報告事項に参ります。

(中山事務局長)

はい、4番報告事項になります。まず1番目の第2回総務委員会ですね。こちらは12月16日に開催がっております。記載の方々にお集まりいただきまして、理事数の変更案及びそれに伴う定款変更案、天草東支部の構成変更案がっております。中身としましては、理事定数の変更予定が、現状の21から案としましては13、内訳としましては、各々の支部の人数合わせて13となります。

また、現在の定款5章の22条には、理事の数の幅がございまして、15人以上25人以内といっ

た記載があり、案の13名でいきますと、定款を変更する必要が出てきます。そこで書いてございますのが、一番下の定款変更案といったところで、理事の数を幅を持たせた形で、10人以上17人以内といった形で、このような案が提案され、中身としまして、次回、理事会の議題としたいと思っておりますが、金子さん、補足ございましたらお願いします。

(金子副会長)

はい、総務委員長を務めております金子です。今、事務局長から説明がありましたとおりでございますけれども、

理事会より総務委員会に、理事数の変更というのを付託されておりました。3回ほど総務委員会を開きまして、その議案について協議しましたけれども、理事数につきましては、なかなか理事会を開いたときに、半数以上の出席が簡単にはいかないというところがございます。理事の数を約13名としたらいかがでしょうかという提案でございます。それともう一つ、支部の統合ということも付託されておりましたけれども、今の総務委員会開きましても、なかなか全支部長の方が集まることはありませんでしたけれども、今の状況、支部の状況を考えますと、なかなかこの今の時期に理事会の主導で支部を2つとか3つとか統合するのはちょっと無茶な気がいたします。

またちょっと後戻りするかもしれませんが、天草東支部の御所浦さん、それは県の委託事業なども受けておられますし、今度御所浦の恐竜博物館などもオープンしまして、単独で支部として活動していただいた方が、決定事項などに関してもスピーディーにいけるんじゃないかというふうに判断しまして、東支部から御所浦支部の方を独立して活動していただきたいというふうに思っております。以上です。

(田口副会長)

御所浦の方はいかがですか。もともと合併を少し促進しまして、理事数の定数も減らして、理事会の決定事項を早くして進みたいというようなことだったんですけれども、委員長が御所浦に関しましては、独立の方が方向性としてはいいんじゃないかということをおっしゃっていただけますけれども、御所浦の方としてはどうですかね。

(竹地理事)

御所浦の竹地です。今から御所浦の恐竜博物館とかあるんで、倉岳栖本と、やっぱ御所浦に来る通過点になると思うんで、それで単独にするっていうならもうしょうがないと思うんですけど。

(田口副会長)

特別に理事の中では一緒に活動されてもいいんですか？

(竹地理事)

まあ別にいいと思うんですけど、単独でもいいと思うんですけど、そう言いますなら。

(金子副会長)

御所浦の元理事だった山下さんとか、その当時の会員さんの方から、この案件に関しては3年ほど前から単独でさせてもらえんのかっていう話が来ております。

まあ一緒に、なかなかイベント事業をするときに、合同で会員さん同士で一緒にやりましょうということもなかなか今までなかったんですけども、やはり地域の特性があるのかなというふうにも思うんですが、一番は会員さんの方からの要望の声というのが多々聞こえてきていたということです。

(田口副会長)

竹地さん、私だったら本渡と合併した方が、逆に本渡と合併をするとか、そっちの方が航路もありますし。

(竹地理事)

まああります。

(田口副会長)

そうですね。当初この話が出たときにですね、実は、もう上島では一つか二つ、下島の方も本渡と、その他を一個ぐらいにすると、部会から、前会長もおっしゃったんですけど、議事を挙げられる、地区からも挙げられるというような体制の方が意見が反映するんじゃないかというようなことで、もともと発動した事例であるんです。

そういった面も、ぜひ一度、合併の方向は変わらない、方向性は変えられないんだらうと思うんですね。その中での割振りについては、いろんなことがあると思いますけども、検討していただくというようなことで、もちろん単独もあり得ると思いますけどもですね。

(竹地理事)

はい、分かりました。

(事務局 古川)

事務局からも1点補足します。第2回理事会において、支部の来年度予算を図らせていただいたと思うんですけど、そこでも天草東は倉岳栖本と御所浦だけ別に予算立てさせていただいている経緯があります。

御所浦の独自性というか、今活発に動いてくださっている方々がいろいろ考える上で、御所浦単独の方が動きやすいということもおっしゃっておられましたし、その地域の状況に応じて、そこでは臨機応変にいいのかなというふうに我々は考えております。以上です。

(田口副会長)

他にご意見はありませんか。松本さんいかがですか。

もともと少し大きなくくりをしていきましよう、部会からも理事を挙げましようというような発想のもとにスタートをしたんですけど。

(松本理事)

私は今御所浦の件はですね。この前にちょっと話したんですけどね、やはりこう、多分今、栖本・倉岳・御所浦でしょう。多分その中に有明が入ったけんでですね、なかなか分からんなどと思うとですよ、他所の支部のことは。だから今、問題になつとつとは御所浦がですね、やはり今前と違って恐竜博物館もできたし、活動が活発になってきとつでしょ、そういう中で、やっぱり副会長か言わつとがですね、やはりこう、なかなか同じある面では目線ではないかな。

やっぱり一緒ならば一緒のようにやっぱり行動していかないといけないんでしょう。ですから、御所浦にはついてはちょっとついては行かないといけない、そういうところで、やはりこう、あれがあるから、御所浦から言わせてもですね、分からんでもなかつです、じゃあやっぱり自分たちでこうして活発に動いていった方が、迷惑かけんだろうという話もこの前、総務委員会でありました、私も、我々も一緒ですよ。

よその支部と一緒にしても、よその支部の内容は分からんとですよ、なかなか。こちらから見ても。ただ頭だけが余裕があつて、一つになつとつても、末端はですね、全然同じ構造が、同じイベントがあつても、つながつてはいかんというところが、現実見て、そういうところで、御所浦の方から、そういうものは単独でちょっとやらせてもらえないですかというのはおかしくないと思います。

だから、有明もですね、上島の中で、本渡につくか、あつちにつくかというような話も前はあつたんですよ。でも有明の場合はですね、私は合併はできません。はっきり言います。というのがですね、入り口です、有明は。入り口の中でですね、とにかく重要な点はですね、今、観光協会の事務局も有明で単独で持たせてもらっております。さざなみフェスタですね、リップルランドで観光協会の事務局は。

そういう観点でですね、有明は今の私の考えでは、本渡にかたつてもどうするんだろうかなと思うとですよ、我々の意見はやっぱり出ておらんし、やっぱりやることとすることが全然違いますし、だから有明の事務局も合併は引き上げんでくれんかと、有明の場合は事務局はそのまま残してくれと。

だから何でかと言えぱですね、有明の場合は特殊なイベントをやっております。オールドカーというやつですね。これにかかる事務局の苦労というのは相当なもんですよ。オールドカーがどういうものであるのかを知つておつて、年代を決めてそこに何台以上出して、1日に何回か電話がかかってくる、そういうやり取りをですね、事務局に委託して果たしてこなすきらすか、と思うとですよ。だから有明の場合は特殊なイベントをしておつたら、とにかくそういうあれで残しておいてもらえんですか？とちょっともう前は言いました。だから合併する問題もですね、やっぱりその隣同士で合併してもらわんとですね、飛んで合併したけんでですね、相手のところのイベントの内容が分からんし、やっぱり天草四郎観光協会は広かですね、言葉の違いもあるし、なかなか他所の市に合併して取り組んでいくのは難しかと思う。

だから、各支部からですね、独立させてくれつて言わつせば、また独立させてやつてよかつつじゃなかつて私は思います。ただ、合併するだけが私は、観光協会のためになつとかと言えぱ、私、それはまた違つと思うんですよ。上では合併するけど、下がバラバラじゃ何のために合併したか分からんてしょ。



(田口副会長)

はい、わかりました。

(松本理事)

私はもう古か人間ですから、そのくらいしか考えておりません。はい。

(事務局 古川)

すみません。確かにおっしゃることもありますし、今後、倉岳の方にもガイダンスセンターとかができる予定になってたりとか、その時、その時でも情勢も異なるので、臨機応変に理事（定数）や合併の話とかもしていいのかなーと思うんですが、一番大事なのは、今回その、定款変更が行われるという事で、これは総会案件になってくるので、必ずその前に理事会に諮らせていただくという形になりますので、そこだけご了承いただければと思います。

(田口副会長)

総会にかける以上、定数についてはこのような話に進めますが、よろしいですかね？

(理事全員)

はい。(全員承認)

(松崎理事)

これ定款は10から17ですか。10から17で、案が13ですよ、予定が。今度からもう行政は外れるというところで、よかですか？

(中山事務局長)

天草市は除いた形での人数だったので、もちろん天草市は1名入って、トータル14名。マックスの17人に対しては3名の幅があり、1名ではちょっとまかないきれないよというところがあれば、2人にしてよみたいな話が総会までにオーソライズされればよろしいかもなと思っています。

(事務局 古川)

すみません。これはちょっとごっちゃになっているんですけど、合併の話と理事定数の話と混同してあるので、一旦地域別で出させていただいて、その他もちろん天草市さんも必要ですし、諸々ちゃんと整えた上で改めて理事会に諮らせていただくという形になります。今回あくまで地域での割り振りを説明させていただいたかったということです。

(田口副会長)

トータルの人数については、定款変更ですから、総会にかけないといけないものですから、トータル人数は減らします。案としましては、地域割りはこういうふうになっています。この他に天草市から一人入っていただくという理解でいいと思います。そういう形で進めると

してよろしいですかね。

(理事全員)

はい。(全員承認)

(田口副会長)

じゃ、次。

(中山事務局長)

4の報告事項の2番目になります。つづいて事業経過報告です。①市委託事業というところで、テレビCM、仕様書作成済みで現在、会員企業に郵送し、コンペへの参加表明待ちとなっております。2番目はこちらの市委託事業ということで、宿泊を伴う旅行商品造成といったところで、今期は部会での検討もいろいろやられたと聞いておりますが、最終的に事務局員とかでのブレインストーミングで4つの案を考えております。

まず、牛深での雑節工場見学プラン、同じく牛深のマリンアクリティでございます。御所浦につきましては、自転車で島内を回るプランを検討中でございます。12月9日に御所浦で検討会を実施し、今月19日、21日にモニターツアーを実施してございまして、19日につきましては、野下と金子が参加してございます。

3番の市委託事業、牛深観光案内所ですけれども、今年度につきましては、光熱水費、人件費等で赤字となるんですけれども、当初予算のまま受託することになっております。特別会計からの補填をしております。

来年度につきましては、藤本会長命を受けた牛深の濱崎昭臣氏同席のうえ、天草市観光振興課松崎課長、藤川係長、鶴田参事それぞれを交えて協議してございまして、最後の別紙と書いてございますけれども、こちら別紙は用意ございませんで、R7につきましては370万円をお願いをさせていただいております。

4番目、県委託事業で化石採集クルージングですけれども、こちらは令和6年の7月21日から11月31日までで、3種類のクルージングプラン、あとは船釣り体験というところで、クルージングは合計66名、船釣り体験は6名の参加をいただいております。最後の⑤、島の宝観光連盟で、昨年度都内の離島キッチンで実施した、「島の宝を探しに行こう」が好評だったので、今年度もほぼ同様に開催されております。

11月2日に田口副会長と当方が参加いたしまして、第1部で当方が地域のプレゼンをし、第2部で座談会を開催しております。事業経過報告の中身は以上でございます。

(田口副会長)

今、事業報告があったんですけど、何かご質問はありませんか。よろしいですかね？

(中山事務局長)

本日ご参加の理事の皆様、これだけは言っておきたいよだとか、ここどうなってんの？みたいなのはないですか。

(理事全員)

全員承認。

(田口副会長)

はい、それでは。

(藤本会長)

はい、では、松崎課長ちょっと遅れてお見えになりましたけれども、先日の瀧会長の講演会を踏まえて、DMOに対するご意見、感想、市側の考えなどありましたら、お願いします。

(松崎課長)

すみません、DMOについては今日の議題にもなっていたんですけど、ちょうど私がその議題が終わってからこちらに来て、どういう協議結果になったかは、存じ上げていないんですけども、こないだの研修の私の印象はですね、端的に言えば、瀧会長の強力なリーダーシップといいますか、ものすごい熱量ですね、やはり全国の先進DMOという形になっているんじゃないかなと思います。

大体、よそのDMOを見ても、そこにはそれなりの人がいらっしやって、引っ張っておられるんですね。そこがやっぱりDMOという組織のある意味で脆弱性と言いますか、結局、組織として、組織の仕組みとして成功するかどうかではなくて、キーマンがいるかないか。要はじゃあ、今うまくいっててもそのキーマンの方がもし外れられたら、そのDMOはどうなるのか、というようなところもあろうかと思います。ですから、なかなか下呂温泉をモデルとしたDMOというのは、なかなか難しいのではないかなというふうには感じました。

私も今、しっかりとした考え方を持っているわけではなくて、天草に合ったこの広い…天草でいろんなコンテンツがあって、そして観光協会の会員の皆様もそれぞれターゲットであったり、そういった部分が違う観光事業をやられている中で、うまくいくような仕組みというのがどうにかできないかなと思っているんですが、なかなか難しい部分があるように思います。

こういった形で天草全体で一堂に会して協議をするとなると、やっぱりそれぞれ地域の色がありますから、みんながまとめる案というのはどうしても無難な案になってしまうのかなと思うとですね、それぞれ地域の個性を生かしながら、そこを伸ばしながら全体として発展していくモデルというのは、天草独自で考えていく必要がある。

じゃその仕組みがどうなのかというと、ちょっと私も言えるようなところではないんですけど。この前はそういうところを感じました。

(田口副会長)

ありがとうございました。その他にはございませんか？

(中山事務局長)

それでは最後閉会の挨拶を山下副会長にお願いしたいと思います。山下さんお願いします。

(山下副会長)

皆様お疲れ様でした。今回はちょっと欠席者も多くて、活発な議論とはいきませんでした  
が、皆様の後ろには地区の会員の方もいらっしゃいますので、ぜひご意見をいただければそ  
れを反映していきたいと思っております。ぜひ意識して、皆様、他の欠席の理事の方にも声  
をかけていただいたりとかしていただけると大変ありがたいなと思います。

年末のお忙しい時期に足を運びいただきまして、誠にありがとうございました。来年が皆  
様にとっていい年でありますように、お祈りしながら、閉会の言葉としたいと思います。あ  
りがとうございました。